

ブラジル福井県文化協会創立60周年 記念式典訪問団報告書

日 程 平成26年10月8日（水）～16日（木）

訪問地 ブラジル連邦共和国 サンパウロ州、パラナ州

ブラジル福井県文化協会創立60周年記念式典訪問団

福 井 県 議 会 議 長	田村 康夫
福 井 県 議 会 議 員	野田 富久
福 井 県 議 会 議 員	吉田伊三郎
福 井 県 議 会 議 員	大久保 衛
福 井 県 議 会 議 員	畑 孝幸
福井県議会事務局事務局長	豊北 欽一
福井県議会事務局総務課主任秘書	友田堅七郎

ブラジル訪問日程

日 時	日 程
10月 9 日 (木)	13:30 TOYOTA ソロカバ工場視察 16:00 セーレンブラジル工場視察
10月10日 (金)	13:00 サンパウロ州議会表敬訪問 14:50 日本移民開拓戦没者慰霊碑参拝・献花 15:30 サンパウロ総領事表敬訪問
10月11日 (土)	11:30 福井村訪問
10月12日 (日)	9:00 県人物故者慰霊法要 10:00 福井県ブラジル移住 100 周年・ブラジル福井県文化協会 60 周年記念式典 13:15 同祝賀会
10月13日 (月)	13:30 イタイプダム視察

TOYOTA ソロカバ工場視察

- 1 日 時 平成26年10月9日(木) 13:30～
- 2 場 所 ソロカバ市
- 3 対応者 ブラジルトヨタ副社長 岩原氏
ブラジルトヨタソロカバ工場長 河合氏
- 4 内 容 ①会社概要説明
②工場内見学

[概要説明]

- ・TDBソロカバ工場では、年間7万台を生産し、従業員は1,600名、敷地面積は3,700,000 m²
- ・主要車種はエティオス(新興国向け。日本のヴィッツより少し小さい)
- ・コンセプトは、グローバルトヨタの品質確保と明るくダイナミックな現場
- ・日本からの出向者は13名で、少しずつ減らしていく方針
- ・モノづくりは人づくりとの理念のもと、従業員の躰も重視
- ・南米全体では13の工場がある。

主な質疑

Q 現地の従業員について

A 人件費は日本に比べて5～6割。東南アジアは、もう少し安い。高校卒業者の割合が高い。大企業で働くことはステータスになっている。従業員のポテンシャルは高いと感じている。

日本との比較で特徴的なのは、夜間学校でスキルを身につけ、給料を上げようとする若者が多いこと。

若くて車を買えるだけの所得がないため、バスで通勤する従業員が多い。
1,600名の従業員は全て正規採用。

Q 来る途中でトヨタ車をあまり見かけない。

A ブラジルにおける自動車のシェアは、フィアット20%、フォルクスワーゲン20%、GM20%、トヨタ5%

現地での価格は、税金の関係もあり、カローラで400万円程度と、ブラジルでは高級車ととらえられている。車を買うサイクルは10年程度。

交通機関としては、飛行機が良く使われるものの、鉄道はあまり使われないため、遠くへ行くのにも自動車を使う自動車社会。

ブラジルではエタノール車も走っているため、ガソリンでもエタノールでも走れる専用のエンジンを開発した。

[工場内見学]

会社の方針や現状、課題対策などを書いた資料(ポスター)が通路や、スペースに掲示されており、従業員が、現状を認識し、意識を高めるよう配慮されている。
地域貢献や工場内の連携も重視しており、ボランティア活動や、従業員のレクレ

ーション活動、スポーツ大会参加などの写真も掲示されている。

工場のモットーは、従業員が楽しく働くことが第1で、次に良い製品を作り社会に貢献すること、最後に会社の利益を上げることとされている。

工場内の安全を確保するため、機械の通り道を横切る箇所にはバーが設置されるとともに、左右を確認する「YOSHI、YOSHI」が従業員に徹底されている。

少しでも作業効率を上げるため、設備の配置や、機械の構造などに工夫を施すことが現場で常に心がけられており、出された良い案は即反映するするとともに、他の工場へもフィードバックする体制がとられている。



セーレンブラジル工場視察

- 1 日 時 平成26年10月9日（木） 16:00～
- 2 場 所 ボトランチン市
- 3 対応者 セーレンオートモーティブ社長 小野茂治氏
セーレンオートモーティブ製造部長 小西出浩二氏
- 4 内 容 ①会社概要説明
②工場内見学

[会社概要説明]

- ・現在、日本、中国、タイ、フランス、アメリカ、ブラジルに生産拠点があり、今後できるインドネシア、メキシコを含め世界8か国に拠点を持つこととなる。
- ・皮のような新素材「QUORE」の評価が高い。
- ・ブラジルは環境に非常に厳しいため、力を入れて取り組んでいる。
- ・ブラジルでも日本と同じ品質の製品を作ることがコンセプト
- ・企業評価を高めるため、従業員全員で工場前の道路を清掃している。
- ・トヨタの自動車のシート生地を主に供給しているが、生産能力に余力があるため、外国の自動車会社にも販売先を広げているところで、フォルクスワーゲンの仕事も取っている。

[工場内見学]

- ・生地を作るための糸を巻くところから一貫した工程で、様々な機械が大きな工場内で稼働している。
- ・在庫の状況が一目で分かることとスペース活用のため、製品を大きなフックにかけて管理している。



サンパウロ州議会表敬訪問

- 1 日 時 平成26年10月10日（金） 13:00～14:30
- 2 同席者 福井県副知事 石塚博英氏 他2名
ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏 他2名
- 3 対応者 サンパウロ州議会副議長 ジョージ羽藤氏
- 4 内 容 ①ジョージ羽藤副議長との意見交換
②本会議場見学
③食堂見学・昼食

[ジョージ羽藤副議長との意見交換]

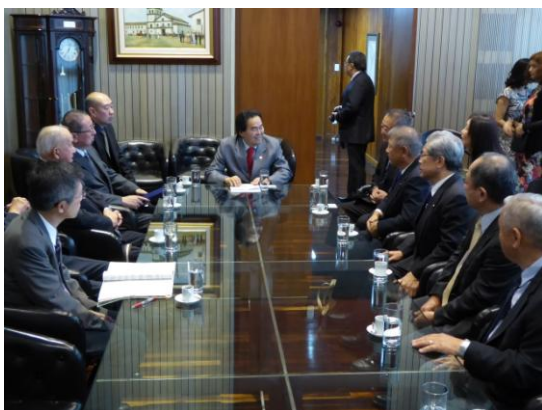
<田村議長あいさつ>

- ・ブラジル福井県文化協会創立60周年記念式典への出席のため、同僚議員4名とともにサンパウロ市を訪問している。
- ・ブラジル福井県文化協会は、1954年8月に創立され、福井県とブラジルを結ぶ唯一の機関として献身的な活動を行っており、大きな期待を寄せている。
- ・今後も、ブラジルと日本、サンパウロ州と福井県が経済、文化、スポーツ等、様々な分野で交流を発展させていくことを願っている。

<ジョージ羽藤副議長の主な発言（日本語とポルトガル語を混ぜて）>

- ・福井県からの使節団にお越しいただき光栄に思っている。
- ・私はサンパウロ市の議員だったこともあるが、そのときタムラという名前の議員がいて、今は連邦議員をしている。
- ・私は2世で、父は愛媛出身で母は和歌山出身。ブラジルには船で58日かけて来た。息子もサンパウロ市会議員。家は田舎にあり、家族で農業をしていた。
- ・移民してきた日本人は皆苦勞したが、悪いこともせず一生懸命働き、社会に尽くしてきた。
- ・福井村も農業が主なので、よく訪問した。残念ながらブラジルは農業の重要さを認識しておらず、国が十分な支援をしていない。最近、ブラジルは環境に力を入れているが、農業にも力を入れるべきだと考えている。
- ・ブラジルは、地震も津波も雪もなく、農業に適しており、恵まれた国である。
- ・国民は銃を持たないが、悪い人と警察が銃を持ち、暴力が増してきて警察も

手に負えなくなっており、どうやって銃を放棄させるかが一番の問題。



[本会議場見学]



[食堂見学・昼食]

食堂はバイキング形式で、料理の重さによって金額が決まる。事前に渡されるプレートに料金が記録され、食事後にレジで精算

日本移民先没者慰霊碑の参拝・献花

- 1 日 時 平成26年10月10日（金） 14:50～
- 2 場 所 サンパウロ市 イビラプエラ公園内
- 3 同行者 福井県副知事 石塚博英氏 他2名
ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏 他2名
- 4 対応者 ブラジル日本都道府県人会連合会会長 原島義弘氏 他1名
- 5 概 要 ブラジルの開拓に寄与した移民先没者の慰霊碑に献花し、手を合わせた後、慰霊碑の地下にある祭壇に線香を手向け、今までのご苦労に敬意を表するとともに、先没者の方々の御霊のご冥福をお祈りした。



《慰霊碑建立の経緯》

1972年、日本海外移住家族会連合会の藤川辰雄事務局長が来伯の折、サンパウロ州奥地の日本人無縁仏を回向しながら調査し351柱を供養したが、全伯にはまだ多数の無縁仏のあることが判明したのがきっかけで、1974年、再び来伯した藤川は県連に諮って先駆者の慰霊碑建立について賛同を求めた。

県連もこれに応じて「日本移民開拓先没者慰霊碑建立管理委員会」をつくり、直ちに慰霊碑建立募金運動に乗りだし、コロニアの募金を主体に日本の家族からの寄付などもあって、1975年3月には、イビラプエラ公園内の日本館に近い場所にサンパウロ市より永代無償貸与の条件で用地を確保し、地鎮祭を行った。

完成の除幕式は1975年8月22日、日本からは日本海外移住家族会連合会の田中龍夫会長および福田赳夫副総理が出席して行われた。慰霊碑は黒御影石で、田中角栄首相の筆による「開拓先没者慰霊碑」の碑銘が入っている。

地下の霊安室には平和観音像と物故者過去帳、各県人会別の過去帳が収められている。また後には、日本から観世音菩薩像と地藏尊像が贈られた。

毎年6月18日の「移民の日」に行われる慰霊碑参拝はコロニアの公式行事だ

が、日本からブラジルを訪れる公式訪問者にとっても慰霊碑参拝は通例になっている。

《イビラプエラ公園の概要》

1954年にサンパウロ市制400周年を記念して造られた市営公園で、サンパウロ市内の南部に位置する。建築家のオスカー・ニーマイヤーとブルーレ・マルクスが設計した。

約120ヘクタールの広大な敷地内に、大小の池や広大な芝生の中に様々な施設がちりばめられており、その為に屋外コンサートの会場としてもよく使用される。なお、1990年に総合体育館で大相撲ブラジル場所が開催された。

原則として、車の乗り入れ禁止

〔主な施設〕

- ・日系人移民開拓先没者慰霊碑
- ・パヴィリオン・ダ・ビエンナール（オスカー・ニーマイヤー設計の見本市会場）
- ・総合体育館 ・オベリスク（護憲革命記念塔） ・噴水
- ・ジョギングコース ・航空博物館 ・桜並木 ・日本庭園
- ・バンデイランテス記念像（植民地時代のブラジル奥地探検隊）

在サンパウロ日本国総領事館領事表敬訪問

1 日 時 平成26年10月10日（金） 15：30～16：00

2 場 所 サンパウロ日本総領事館
（パウリスタ通り沿いトップセンター内）

3 応対者 在サンパウロ日本国総領事館 総領事 福嶋教輝氏

4 概 要

石塚副知事、田村議長から挨拶を述べた後、福嶋総領事から、ブラジル、サンパウロの現況や日本との関係等について説明

<田村議長挨拶>

- ・ブラジル福井県文化協会創立60周年記念式典への出席のため訪問している。
- ・日頃から、サンパウロ州へ進出している本県企業や観光客の安全等に心を砕いていただき感謝する。
- ・今後も福井県文化協会には日本とブラジルの懸け橋となっていただくよう期待しており、総領事には、ご支援ご協力をお願いする。

<総領事説明>

- ・GDPは、一人当たり11,437ドルあり、裕福に見えるが、貧民街も次々できるなど貧困層の問題や交通渋滞などの問題が解決されず、不満が生じている。
- ・ブラジル農業は、大豆やトウモロコシなど、世界の食を支えている。肉用牛の数も世界一（口蹄疫の問題で日本に輸出不可）。石油もリオ沖の深海で採掘しているなど非常に豊かな国。
- ・日本との貿易はわずかだが、輸入の鶏肉の9割はブラジル産。コーヒー豆も3割。ブラジルへの投資も増加中
- ・サンパウロは、日系人が多く、日本人に対する信頼感も高い。47都道府県の県人会があるのは世界でここだけ。地元料理のシュラスコ店より日本料理店の方が多というジョークもある。

主な質疑

Q ブラジルの治安について。

A 富裕層が十数%、5割が中間層で残りが貧困層で、本当に貧しい。セントロ（旧中心街）へ行くと仕事のない人が大勢おり、怖くて行けない。銃を持っており、実際に発砲する。ただし、貧しさでは、ブラジルの北半分はもっと貧し

い。

今年のワールドカップでは、皆が気をつけたため、ブラジル全体で窃盗・強盗が34件と、南アフリカ大会の41件より少ない結果となった。

企業の社長や施設も警備員をつけており、警備に無駄なお金をかけている。良い国なのに大変残念。

Q 日系社会について。

A 日系人は結婚相手としても人気があり、5世6世となると日系と分らない。
日系人160万人といっても、日系社会につながりがあるのは数万人。将棋、相撲、カラオケなどは、大会も開かれている。



福井村（コロニア・ピニャール）訪問

- 1 日 時 平成26年10月11日（土） 11：30～
- 2 場 所 サンミゲル・アルカンジョ市 コロニアピニャール耕地
※サンパウロ市の西方175km、サンミゲル・アルカンジョ市の東方18キロに位置し、両市を結ぶ主要道路沿いに、赤い鳥居が目印となる入口がある。
- 3 内 容 ①施設見学
②歓迎会

〔施設見学〕

○日本語モデル学校

日本語教育の歴史はコロニアピニャールへの入植初期から始まるが、1991年、JICA青年ボランティアが赴任したことにより、生徒数も60名を超え、現地教師1人を雇用して2人体制となる。

1997年2月、念願の新校舎がJICAの支援を受け、日本語モデル校として完成、開校された。

2013年8月からJICA青年ボランティア日本語教師として、青木宏太さん（神奈川県在住）が赴任している。

生徒は、午前中、公立学校へ通い、午後から日本語学校で勉強する。

中央のホールには、技術研修員を介して交流している坂井市の高椋小学校の児童の絵画や習字が掲示されている。



○青年図書館

天野鉄人氏（山梨県出身）が建設。面積は550㎡。

土地購入から建設費、図書すべて自費であり、建物、備品等は手作りのもの

も多い。日本語の図書10万冊を有し、貸し出しも無料。漫画本も豊富で、子ども達の日本語の習得に役立っている。

平成24年8月に、ブラジルにあるコロニア・ピニャール福井村開村50周年記念式典出席のため知事が訪伯。記念式典実行委員長の山下治氏により日本語図書館の案内を受けた。ブラジル側の要望により、平成25年9月に県民から寄せられた書籍432冊を福井村へ寄贈した。



○武士道の館、宿泊施設

輝号記念館「武士道の館」は武道（剣道）を学ぶ施設として、優れた木材をふんだんに使用し、2011年に完成した。隣接する宿泊施設を利用して、ブラジル剣道代表チームの合宿も行われている。

宿泊施設は、新しい施設を建設中であり、古い施設も、住民が集会所として利用しており、カラオケ等も楽しまれている。



○体育館

福井村開村50周年記念事業の一環として、2012年6月に完成。面積は1,064㎡。建設費は、25,528千円で、福井県から5,000千円の補助を行っている。



[歓迎会]

○場 所 コロニアピニャール文化体育協会会館

○概 要

- ・ 福井村文化体育協会会長から歓迎の挨拶
- ・ サンミゲルアルカンジョ市のルイスカルロス アランテ デ バルボーサ副市長が挨拶
- ・ 石塚副知事、田村議長をはじめ訪問者全員が、自己紹介を兼ねて挨拶
- ・ 石塚副知事、田村議長からそれぞれお土産を贈呈
- ・ 福井村文化体育協会から訪問者にお土産贈呈
- ・ 福井村の子供による和太鼓演奏を鑑賞

歴史は浅いとのことであるが、日本の大会で、出場55チーム中5位に入るなど、実力のある本格的な演奏であった。

- ・ 福井村の婦人の方々手作り料理を食べながら交流
- ・ 副知事、議長をはじめとする訪問者全員が記念植樹





《福井村の概要》

〔面積〕	第1ピニャール	7 6 2 ha
	第2ピニャール	1 8 0 ha
	計	9 4 2 ha

〔在住者〕	福井県人	1 6 世帯	
	他県人	3 9 世帯	人口 2 2 5 名

〔沿革〕

戦後の人口急増により食糧不足などが深刻化、国は移住政策を再開し、移住振興公社（現国際協力事業団）がブラジルの各地に移住地を造成した。

ピニャール移住地（福井村）もその一つ。JICA直轄の移住地として、南伯農協中央会が造成と営農指導を担当し、村づくりが行われた。

1962年（昭和37年）3家族14名が第一弾として入植、開拓営農に入る。

その後、日本の復興が軌道に乗り、後継の移住者が減少したため、入植希望者を全国公募に切り替え、1966年（昭和41年）満植となる。（福井出身16世帯、他県出身39世帯）

南伯農協中央会の企画により、第2ピニャールが隣接地に造成される。

福井県は、県人入植者に土地代の一部を補助したり、電気導入、会館建設、日本語教師住宅の建設を支援。

〔産業〕

農業中心で果樹（イタリアぶどうが主産物）、野菜の栽培、養鶏、他に柿、ビワ、ポンカン、アテモヤ、デコポン等

〔施 設〕

昭和３２年国際協力事業団直営ピニャール移住地として造成され、同事業団の助成により村までの取付け道路、村内主管道路の整備、電話線の取付けがなされ、また事業団と福井県の助成により、電気が引かれた。昭和５５年度には福井県の助成により村の集会場としての文化センターが建設されている。

村の教育機関としては公立の小学校、中学校、高等学校がある。他に正式な学校ではないが、村民が費用を出し合って設けている日本語学校（日本での塾的なもの）が１校ある。

平成２３年から入植５０周年記念事業として体育館を建設、福井県も一部助成を行い、平成２４年６月に完成した。



福井県人ブラジル移住 100 周年・ブラジル福井県文化協会 60 周年 記念式典

- 1 日 時 平成26年10月12日（日） 9：00～16：00
- 2 場 所 サンパウロ市リベルターデ区 宮城県人会会館
- 3 同行者 福井県副知事 石塚博英氏 他2名
J A福井県五連会長 田波俊明氏 他4名
福井県日伯友好協会常任幹事 大西義幸氏 他2名
- 4 主催者 ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏
- 5 内 容 ①県人物故者慰霊法要
②式典
③祝賀会

[県人物故者慰霊法要]

ブラジル在住のご住職による読経があり、来賓から順に焼香を行い、福井県から移民された物故者の御霊のご冥福をお祈りした。



[式典]

- 1 開会の辞
- 2 ブラジル・日本両国家斉唱
- 3 県人開拓戦没者に対する黙祷
- 4 来賓紹介
- 5 会長挨拶
- 6 来賓祝辞 福井県副知事、福井県議会議長、J A福井県五連会長、福井県日伯交流協会常任幹事、在サンパウロ日本国総領事、日系三団体（文教、援協、県連）代表、サンパウロ市議会

議員、サンパウロ州議会議員、ブラジル連邦下院議員

- 7 祝電およびメッセージ披露
- 8 功労者および高齢者表彰、記念品授与、受賞者謝辞
- 9 県人会（福井村）へ記念品（祝儀）贈呈
- 10 日本側へ記念品贈呈
- 11 日本側へ功労者表彰、受賞者代表謝辞
- 12 日系コロニア三団体へ功労金贈呈、謝辞
- 13 祖父（第1回移住者）への思い出
- 14 記念ケーキカット
- 15 万歳三唱
- 16 閉会の辞

<会長挨拶>

- ・記念式典に、副知事はじめ、多くの方のご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。
- ・1950年代初期、戦災、震災が続いた母県からの支援要請に基づき県人の多くの協力を得、3回にわたりお見舞金を送ることができた。
- ・その時できた県人のつながりと、県からの要望により、1954年8月に県人会が創立された。
- ・県費留学生、技術研修員も188名にのぼり、今後の交流を発展させてくれると確信している。

<議長挨拶>

- ・ブラジル福井県文化協会が創立60周年記念式典の開催をお祝いする。
- ・設立以来、ブラジル連邦と福井県を結ぶ唯一の機関として貢献されていることに深く感謝する。
- ・福井県は、南北を結ぶ高速道路が完成し、新幹線の整備も決まった。
- ・リオ五輪の次が東京五輪で、その中間の年に福井県で国体が開催される。
- ・福井県は、世界有数の恐竜博物館を中心としたイメージアップにも取り組んでいる。
- ・近年の国際化や高度情報化の中で、県も世界に目を向けることが必要であり、今後も、貴協会には、日系人を支え、ブラジルと福井県をつなぐ活動をお願いしたい。



[祝賀会]

福井県議会畑議員の乾杯発声により開会し、出席されている文化協会の皆さんとの交流を深めた。



《ブラジル福井県文化協会概要》

〔設立目的〕 ブラジル在住本県移住者の定着安定を図り、会員相互の親睦福祉を促進するとともに、母県からの訪伯者に対する便宜供与を行い、母県とブラジルを結ぶ唯一の機関として献身的活動を行う。

〔沿革〕 昭和29年(1954年)8月 「在伯福井県人会」として発足
昭和56年(1981年)4月 名称を「在伯福井県文化協会」に変更
平成16年(2004年)1月 名称を「ブラジル福井県文化協会」に変更

〔組織〕 (1)役員 下記のとおり
(2)会員 約586世帯(約1,760人)
(3)所在地 ブラジル連邦共和国サンパウロ州サンパウロ市
リベルターデ区エスツダンテ街15

〔活動内容〕 (1)在伯移住者の定着、安定のための事業
(2)母県からの訪伯者の歓迎、便宜供与
(3)母県との交信、連絡(用地交渉者搜索含む)
(4)会員の福利厚生のための事業
(5)研修員派遣等による人材育成事業

役員名簿

会 長	有明正一
副会長	西川修二、石津黎子、柴田イナシオ
会 計	(第一) 森瀬清和、(第二) 野中エリザ
書 記	(第一) 川崎省三、(第二) 山下広治
理 事	橋本巨太郎、佐々木則一、大橋教子、伊達エジソン、貴田孝平、 西村純子、山本ウイリアン春雄
相談役	志田茂夫、山下治、金兼文義、高島嘉則、西田はるの、竹内賢治 笹島彦栄、曾山民夫、
監査役	野村ロビソン章、建本ネイデてるこ、西田徹
補充監査役	吉田パウロあきかず、後藤幸広ロドリゴ、土井チアゴサントス

イタイプダム視察

- 1 日 時 平成26年10月13日（月） 13：30～
- 2 場 所 ブラジルとパラグアイの国境、パラナ川
- 3 概 要

イタイプダムは、ブラジルとパラグアイの共同出資で作られ、管理も両国が共同で行っている。管理事務所は、国境の位置に作られており、事務所の右側と左側に、両国の技術者が分かれて座っている。通路には、国境線も示されている。

ダムは、中空重力式コンクリートダムや、九頭竜ダムと同じロックフィルダム、土でできているアースダムなど複数の型式のダムにより構成されており、主要なダムの長さが1.4km、堤体全体の長さは約8kmにおよび、貯水池の面積は1,400km²あり、琵琶湖の約2倍、流域面積も80万km²と日本の国土の2倍以上である。展望台や、ダム堤体の上から眺めても、全てを見渡すことはできない程、壮大な規模を誇るダムである。

水力発電による発電出力は1,400万kWで、福井県内の原子力発電所の総発電出力に相当し、中国の三峡ダムに次いで世界第2位。発電した電力は、ブラジルとパラグアイで均等に分けることとなっているが、パラグアイは、その何割かで賄えるため、残りをブラジルに売電しており、水力発電の割合が8割であるブラジルの電力の2割強をカバーしている。

現地在住のガイドによると、貯水池となっている場所には、大きな町はなかったものの、少なくない住民がダムに近い町に移住した。



